

## 子どもは興味があふれてる

校長 玉田 絹夫

いよいよ運動会が目前になりました。何とか天気に恵まれて子どもたちの演技を披露できるように願っております。

朝のあいさつに校門に立っていますと、「子どもの興味ってすごい。興味を持って伝えたいと来たときの目は輝いていて素晴らしい」と思うことがよくあります。そうではないのですが、子どもたちは私が理科のことは何でも知っていると思ってきています。朝出会った虫や花、種などいろいろなものを持ってきて「校長先生、これ何ていう虫?」「これは何のドングリ?」などと聞いてくれます。でも、「ごめんね。校長先生も分からないわ」と言うと、業間に校長室へやってきて「分かったよ」と教えてくれたり、一緒に本で調べたりしてくれます。中には触るのを躊躇しそうな幼虫を「校長先生これは大丈夫だよ」と教えてくれて触らせてくれます。また、オシロイバナを見せて「この花は黒い種をつけるよ」と教えてくれる子もいます。先日は校門



横の塀にクモが1匹。するとさっそく「わー、大きい」と言って集まってきて、「前見たやつより大きい」とクモ談義が始まります。子どもにとっては、身の回りにいるもの、あるもの全てが興味をそそるものであり、名前が分かるだけでもうれしさがいっぱいになります。登下校は、子どもにとって興味のあるものがちりばめられているのではないのでしょうか。

こんな素直な子どもの興味を大切にあげることが、子どもの学ぶ意欲を高め、何でも教えるのではなく一緒に調べたり考えたりすることによって、そこからまた子どもの興味があふれ出てくるのではないのでしょうか。朝のこの時間が、子どものおかげで私も興味津々になっています。やっぱり子どもは興味の塊。この塊を原石にして輝かせられるようにしたいものです。